



4

1 6月になり、今年もミカンの実がなり始めました。
2 岸田さんの自宅裏の果樹園。約4ヘクタールの土地で、4品種のミカンを栽培しています。3 以前の『岸田ミカン』のデザイン。4 出荷が始まる11月ごろの写真。独自の有機栽培で育てた、甘みと酸味のバランスのよい自慢のミカンです。



『温故蜜柑』が 僕の人生を変えてくれた——

1

「僕がミカン栽培を始めたのが今から30年前。ミカンはやめた方がいって、当時みんなから言われました。でも、僕はあまのじゃくだから、逆に全国に通用するミカン農家になってやろうって思いましたね（笑）」

大学や試験場で栽培技術を学んだ岸田さんは、栽培1年目から満足のいく品質のミカンを作ることができたそうです。しかし、出荷先の県内の市場では、いつまで経っても思うように売れませんでした。「このまま終わりがたくない」。岸田さんは県外での販売を考え始めます。

「とはいっても、僕の無名のミカンが、有力産地の愛媛や和歌山のミカンと戦うには厳しいものがあります。そこで、近くに住む中野さんに段ボール箱のデザインをお願いしました。ミカンには自信があったので、消費者の目に留まることさえできれば勝算はあると思ったんです」

中野さんの考案したデザインを見て、「これなら勝負できる」と直感した岸田さん。ミカン栽培を始めて14年目、「岸田ミカン」から『温故蜜柑』に名称を変えて再出荷しました。そこから、大きな変化が訪れます。

「個性的な名称とデザインが注目されて、少しずつメディアに取り上げられるようになったんです。露出が増えると、問い合わせも増えてきて、いろんな販売先とつながりができました。特に、京都の市場に出荷できるようになったことは大きかったですね」

目の肥えた仲買人が集まる京都の市場。そこで販売されているミカンは、大多数が和歌山県産の高級ミカンです。その京都の市場で認められ、『温故蜜柑』が販売されるようになりました。岸田さんのミカンが、ついに全国に進出したのです。

岸田さんは、これまでの30年を笑顔でこう振り返りました。

「もちろん、デザインで全てがうまくいくなどとは思っていません。商売はそんな甘いもんじゃないです。でも『温故蜜柑』になつていなかったら、やっぱり今の僕はないでしょうね。全国に通用するミカン農家になるという夢も、実現していなかったでしょう。中野さんには感謝しかありません。『温故蜜柑』が、僕の人生を変えてくれました」



岸田果樹園
岸田 和章 さん
(国見町竹田津)